

第22回青梅市中心市街地活性化協議会 会議録

日 時 2022年4月25日(月) 13:30~15:30

会 場 青梅商工会議所 3階特別会議室

1. 開会挨拶 小澤会長

2. 確認事項

- (1) 資料の確認
- (2) 定足数の確認
- (3) 前回会議録について

3. 協議事項

- (1) 2021年度事業報告および収支決算書について
- (2) 2022年度事業計画書(案)および収支予算書(案)について
- (3) 青梅市中心市街地活性化協議会の今後の方向性について

4. 報告事項

- (1) 各事業の進捗状況
- (2) タウンマネージャー報告

5. その他

- ・次回開催日 2022年10月予定

6. 閉会挨拶 小山副会長

(配布資料)

- ・名簿
- ・2021年度事業報告
- ・2021年度決算書
- ・2022年度事業計画(案)および収支予算書(案)
- ・青梅市中心市街地活性化協議会の今後の方向性について(検討)
- ・中心市街地活性化基本計画終了後の協議会等について
- ・基本計画事業一覧(令和3年度事業進捗状況)
- ・シネマネコ1万人突破記事
- ・まちの駅青梅 移転オープン/御嶽駅 公募型写真展チラシ
- ・シネマネコクラウドファンディング実施中チラシ
- ・シネマネコパンフレット

<p>司会</p>	<p>皆様、こんにちは。定刻になりましたので、第22回中心市街地活性化協議会を開催させていただきます。お忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日、司会進行をさせていただきます、青梅商工会議所の中村でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>開会の前に委員の変更がございます。お名前を申し上げますので、その場でご起立をお願いいたします。お手元に資料の「名簿」がございます。その内容を見ていただければと思います。まず、変更点でございます。</p> <p>青梅市 副市長 池田副市長 → 小山副市長 西分大通り振興会 井上会長 → 沼田会長 東京都交通局 六尾青梅支所長 → 泉青梅支所長 第1支会 山本支会長 → 田中支会長（欠席） 青梅青年会議所 大久保理事長 → 多田理事長 青梅市社会福祉協議会 下田常務理事 → 池田常務理事</p> <p>以上ようになっております。</p> <p>それでは開会に先立ちまして、小澤会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。小澤会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>皆様、こんにちは。年度が変わりまして、皆様もいろいろとご多忙のことかとは思いますが、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、中心市街地活性化協議会ですが、中心市街地という命題が取り上げられるのはひとつのチャンスです。専門家の方と話をしましたところ、結果も大事だが、中心市街地というひとつの命題に関係者の皆様が集まって議論することが重要でいろんな意見が出てくるはずとのことを話されていきました。また、いかに関係者だけでなく、周囲の方々に情報を共有して落とし込み、みんなで考えていくことが長い目でみるとまちの発展に繋がると思うので、これからも市民の皆様へ中心市街地活性化のことを広く周知して対応していくと良いとも話されていきました。皆様にはいろいろとご協力をいただくこととなりますが、次の輪、次の輪と最終的には市民の皆様へ中心市街地の活性化について考えていただけるようなきっかけ、機会にできたらと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>小澤会長、ありがとうございました。</p> <p>それでは議事進行につきましては、小澤会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>それではご指名ですので、議長を務めさせていただきます。まず、確認事項から入らせていただきます。事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは確認事項です。まず配布資料のご確認でございます。</p> <p>— 資料の確認 —</p> <p>以上で資料となりますが、資料漏れ等はございませんでしょうか。問題なければ以上が本</p>

	日の配布資料とさせていただきます。
議長	ありがとうございました。皆様、資料は問題ございませんでしょうか。それでは次に定足数の確認について、事務局より説明をお願いします。
事務局	それでは定足数の確認をさせていただきます。本日の出席状況ですが、定数35名に対し出席者22名、委任状出席13名、合計35名となっています。協議会規約第12条第2項によりまして、委員の過半数の出席をもって本協議会は成立となります。よろしくお願いいたします。
議長	ありがとうございました。それでは成立いたしましたので進めさせていただきます。続いて前回会議録について、事務局より説明をお願いします。
事務局	前回は昨年11月に青梅織物工業協同組合様の会場でリアルにて開催させていただきました。前回の会議録につきましてはすでに皆様にご案内させていただいております。本日はお手元の資料にお配りしておりませんが修正等がございましたら事務局までご一報いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
議長	ありがとうございました。確認事項は終了させていただきます。早速、協議事項に入らせていただきます。2021年度事業報告及び収支決算書についてです。事務局よりご説明をお願いいたします。
事務局	それでは2021年度事業報告を説明させていただきます。中心市街地活性化協議会を昨年度は2回開催いたしました。第20回は4月27日に開催いたしました。しかしながら緊急事態宣言発出により、書面決議とさせていただきます。出席者は35名で、議案につきましてはすべてご承認をいただいております。続いて、第21回は11月17日に青梅織物工業協同組合様にて開催をさせていただきました。出席者は35名で、議案につきましてはすべてご承認をいただいております。次に、活動いただきましたタウンマネージャーにつきましては、実績からの多様な視点を導入し、中心市街地の活性化、地元と密着した独自性の高い市街地の課題解決等を目的として國廣タウンマネージャーに79日活動いただいております。さらにアドバイザーにつきましては、中心市街地活性化およびアキテンプ不動産等の対応を目的として本橋アドバイザーに40日活動いただいております。その他といたしまして、青梅駅前の再開発の事業性の検討や地権者の合意獲得、それとテナントへの対応につきまして、國廣タウンマネージャーに支援を行っていただきました。昨年度の報告は以上になります。続きまして、2021年度収支決算書を説明させていただきます。収入の部ですが、補助金として青梅市様から 2,579,118 円、青梅商工会議所から 644,779 円となります。収入の部の合計が 3,223,897 円となります。続いて支出の部ですが、協議会運営費といたしまして、タウンマネージャー謝金 2,413,845 円、アドバイザー謝金 611,080

	円、事務局運営費 64,325 円、会議費 24,160 円、通信運搬費 31,080 円、消耗品費 79,407 円、以上が支出となります。支出の部の合計が 3,223,897 円となります。以上で説明を終わります。
議長	ありがとうございました。それでは、ただいまの報告につきまして監査報告を久保監事、お願いいたします。
監事	先般、4月11日に青梅商工会議所におきまして、関係書類を確認させていただきました。監査の結果、帳簿書類等は正確適切に処理されたことをご報告申し上げます。以上です。
議長	ありがとうございました。それではただいまの報告について、皆様から何かご意見等がございますでしょうか。よろしいですか。よろしければ拍手でご承認を頂きたいと存じます。
全員	拍手で承認。
議長	どうもありがとうございました。それでは承認をいただいたということで、次に2022年度事業計画書及び収支予算書についてです。事務局よりご説明をお願いします。
事務局	それでは2022年度事業計画（案）及び収支予算書（案）を説明させていただきます。事業計画になりますが、協議会の規定に則りまして昨年と同様の事業を実施していきたいと考えています。収支予算ですが、収入の部といたしまして、青梅市様から2,880,000円、青梅商工会議所から720,000円、以上が補助金となり、収入の部の合計が3,600,000円となります。続きまして、支出の部ですが、協議会運営費といたしまして、タウンマネージャー謝金2,400,000円、アドバイザー謝金900,000円、事務局運営費100,000円、旅費40,000円、会議費10,000円、通信運搬費50,000円、消耗品費100,000円となり、支出の部の合計が3,600,000円となります。本年度も昨年度と同様、國廣タウンマネージャー、本橋アドバイザーに活動お願いしたいと考えています。以上で説明を終わります。
議長	ありがとうございました。それではただいまの報告について、皆様から何かご意見等がございますでしょうか。よろしいですか。よろしければ拍手でご承認を頂きたいと存じます。
全員	拍手で承認。
議長	どうもありがとうございました。それでは承認をいただいたということで、次に青梅

	<p>市中心市街地活性化協議会の今後の方向性についてです。こちらは青梅市の田中さんからご説明をお願いいたします。</p>
<p>青梅市</p>	<p>市中心市街地活性化協議会の今後の方向性につきまして、青梅市よりご説明させていただきます。青梅市商工観光課の田中と申します。よろしくをお願いいたします。青梅市中心市街地活性化協議会の今後の方向性について（検討）の資料をご覧ください。一番上の部分になりますが、昨年度、皆様にもお計りをいたしました青梅市中心市街地活性化基本計画の1年延長を含む計画変更につきましては、無事に3月24日付けで内閣府より認定をいただきました。ご協力いただき大変ありがとうございました。これに伴いまして、現在の計画期間は平成28年7月から令和5年3月となっており、今年度が最終年度となります。そこで、令和5年度以降の基本計画や協議会の方向性につきまして検討を行っていく必要があります。本来、令和5年3月の計画終了時に目標達成状況等を踏まえまして判断することとは思いますが、来年度の協議会の予算等にも関係してきますので、本日の協議会から皆様のご意見を伺いながら次回10月の協議会で方向性を定めていければと考えております。また、これよりご説明します、今後の協議会のあり方につきましては協議会の設置者の青梅商工会議所とまちづくり青梅を中心として今後検討していくことにはなりますが、今回は基本計画の関係もありますので、青梅市からご説明をさせていただきます。まず、「第2期」基本計画（法定計画）策定についてです。現在は第1期基本計画になりますが、それが終了した後の第2期基本計画の策定につきまして、先日、内閣府に確認を行いました。その結果、事業を実施したが達成できなかった、事業が遅れて達成できなかった等の理由とした現行計画からの継続事業等が中心となる第2期基本計画というものは原則不可ということでした。青梅市には現在第2期基本計画として策定の目玉となるような新規事業等がないことから、第2期基本計画というものの策定は現在難しいと考えています。その場合の来年度以降の協議会等についてです。第2期基本計画を策定しない場合においても、青梅市の市中心市街地をより活性化していくために、この協議会を基とした事業推進が引き続き必要ではないかと考えられます。既に基本計画が終了した他の自治体に確認をしたところ、引き続き法定ではない任意の協議会として継続をしているケースが多くみられました。その際、現行の基本計画を基とした修正、延長等を行った独自計画、これは法定ではない計画にはなりますが、このような計画を策定して市中心市街地の活性化を目指しているという自治体もありました。別添資料の他自治体の状況をご覧ください。具体的な自治体名は控えさせていただきますが、この2年間で法定の基本計画が終了した自治体のうち15自治体に照会を行いました。その結果、協議会を継続しているところは15自治体中10自治体ありまして、そのうち4自治体につきまして基本計画に変わる独自計画を策定しています。また、自治体から協議会への補助金につきましては、協議会が行う事業に対する補助金や委託費を交付しているというところは4自治体ありましたが、現在の青梅市のように運営費補助金として交付している自治体はありませんでした。継続している協議会の事務局につきましては、すべて従前から引き続いて商工会議所やまちづくり会社が担っていると</p>

	<p>いうことでした。次に青梅市としての課題でもありますが、法定の基本計画、協議会でなくなるため、協議会運営費補助金の交付について検討が必要となります。以上のように今後の協議会の方向性につきましては、皆様とともに検討していく必要があると考えています。こちらにつきましては10月の協議会の際に事務局で検討した結果を議題としてあげさせていただきたいと考えております。ご説明させていただきました内容につきまして、ご意見等がございましたら5月中旬に青梅市中心市街地活性化協議会事務局までご連絡をいただければと存じます。以上で説明を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございます。ただいま、ご説明をいただいたところでございます。青梅市に限らず、中心市街地活性化は生活する我々の永遠の命題であり、ある一定の期間の中でどうか答えを出したり実績を作ったりということでもなかろうかと思えます。今後の流れとして青梅市の田中さんよりご説明をいただきました。ただいまの説明についてご意見やご質問はございますでしょうか。タウンマネージャーの國廣さん、どうぞ。</p>
TM	<p>青梅市の田中さんよりご説明がありましたが、独自計画の策定についてバツがついているところであっても立地適正化計画で取り組んでいる自治体が多いです。ここでは中心市街地活性化計画としての独自計画はないという形で記載されています。従いまして、まったく独自計画を策定せずに協議会だけ運営してところが非常に少ないということがわかりますので、補足させていただきます。以上です。</p>
議長	<p>ご説明があったとおりで、各所でいろいろ行っているわけですが、表現、解釈については難しい部分があるのではないのかと感じたところです。他に何かございますか。社会福祉協議会の池田さん、どうぞ。</p>
委員	<p>確認なのですが、各団体については経過期間終了して法定の計画は作ってないということですが、逆に言うと第2期の法定計画を作られた自治体は全国にどのくらいあるのでしょうか。</p>
青梅市	<p>第2期、第3期ということで計画策定をしている自治体は全国にもございます。</p>
委員	<p>それであれば、そのような資料についても若干整理していただきまして、どんな形であれば第2期、第3期の計画が作れるのかを検討いただければと考えます。</p>
青梅市	<p>承知いたしました。次回の際にそれらの資料も含めてご提示させていただければと思います。ありがとうございます。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。私も興味のある所です。他に何かございますか。よろしければ今後の方向性の詳細については次回の協議会の際に色々ご提示いただくということにさせていただきたいと思えます。これで協議事項は終了させていただきます。</p>

	ます。ありがとうございました。
議長	続きまして、報告事項です。各事業の進捗状況についてご報告、ご説明をいただきます。まず、都市機能の（株）まちづくり青梅の野寄社長、お願いします。
副会長	今回の協議会からのまちづくり青梅のスタッフも出席させていただいています。私からは事業の概略報告をさせていただき、スタッフの田中より詳細説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。まず最初に、先程、青梅市の副市長様が変わられたということですが、当社の取締役を副市長様にお願いしていますので、池田様から小山様に変更させていただくということで、昨年の夏に書面で臨時株主総会を開きました。1月1日付で小山副市長に取締役に就任させていただいています。それから事業の駐車場管理ですが、駐車場の利用台数がコロナの影響で大きく減少しておりますが、徐々に回復傾向にあります。しかし、まだコロナ以前の水準には戻っていないというのが実情です。去年は青梅市の観光駐車場ですが、例えば釜の淵の駐車場がゴールデンウィーク期間中に閉鎖されましたので、観光客が市内の駐車場を多数利用され、買い物客から駐車できないとの声や、ゴミを放置していくということで苦情がありました。今年は閉鎖がないので大丈夫だと思いますが、注目しているところです。青梅マルシェは毎年寒いために1月、2月は休業してまして、3月より開催しています。思ったより来場者が多く、全体的にイベントというものが減ってますので、開催しているところに人が集まると思っております。次にアキテンポ不動産事業ですが、2月にアキテンポ見学会を開催しました。コロナ禍で人数を絞って開催しました。おうめ時間で営業しているカフェは順調に営業しています。民泊は海外からのお客様が少なく苦勞していますが、それでも順調に営業していると思っております。青梅麦酒はその場で飲むだけでなく、お客様がお持ち帰りのできる酒の販売ができるように手続きを進めています。青梅駅前の旧長崎屋ビルを建て替えるため、東久留米の不動産屋が買い取りました。それに伴い、退店または移転を余儀なくされたテナントがあり、サイクルハーバーは3月末に撤退して廃業しました。jihan de おうめマルシェは3月中旬に青梅市本町駐車場横の壁の裏に移転して営業しています。また、まちづくり青梅の事業について、視察が2箇所ありました。青梅市様および青梅商工会議所様のご協力をいただきながら國廣タウンマネージャーによる座学、街歩きなどの対応をしました。あと補足を田中よりさせていただきます。
委員	ただいまご紹介いただきました株式会社まちづくり青梅の田中と申します。よろしく願いいたします。私の方から補足といたしまして、最初に駐車場事業につきまして、3月21日のまん延防止解除から1ヶ月経ったばかりで具体的な数値、統計は把握できていませんが、目視で増えてきていると思っております。また、暖かくなり観光客が増えてきてゴミ問題なども出てきています。今後も気をつけて見守っていかれたらと思っています。2つ目といたしまして、おうめマルシェ事業ですが、引き続きコロナ対策を行いながら開催しました。3月は750名、4月は630名の来場者がありまし

	<p>た。引き続き SNS を使用して広告宣伝等も行って、目視で来場者の変化などその効果を感じています。普段、お見かけしない方や来場される時間帯の変化、自転車などで市外から来られる方などが増えています。自転車を置くスタンドなども設置を予定しています。夏や秋に向けて、実行委員会とフリーマーケットなどを取組んだマルシェも考えています。3つ目といたしまして、アキテンプ不動産事業ですが、2月18日、19日の2日間、午前午後のコースに分けて各3名までの人数制限をして5店舗を紹介しました。合計11名の方が参加され、アキテンプ不動産でお預かりしている店舗から2月から今月までに3店舗開業または開業に向けて準備を進めています。以上となります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。コロナの影響もある中ですが、積極的に行動されていて、ご報告いただきましてありがとうございます。次に青梅市の田中さん、ご報告をお願いします。</p>
青梅市	<p>青梅市からは令和3年度の取り組みについて報告させていただきます。配布資料の「基本計画事業一覧(令和3年度事業進捗状況)」をご覧ください。基本計画に定めている各事業につきまして、事業内容および令和3年度の進捗状況等を記載した表になります。事業数も67事業と非常に多いため、詳細につきましては後ほどご確認いただければと思います。次に、基本計画に定める青梅市の個別事業につきまして口頭にてご報告いたします。まず都市計画道路事業の整備状況についてです。キネマ通りの整備事業ですが、これまでこ線橋南側区間の用地買収および改築工事を優先的に進め、現在はこ線橋南側で相互通行となりまして、交通が円滑化し利便性が向上いたしました。令和4年度につきましては、こ線橋架け替え工事に向けてJR東日本との協議や設計を進めていきます。続きまして、ケミコン跡地に接する2つの都市計画道路です。まず、東西方向に接する福祉センターから青梅総合高校正門付近までの道路についての整備事業です。この事業につきましては、都に変わりました都道と市が整備している新道づくり、まちづくりパートナー事業として整備を進めています。令和3年度につきましては、青梅総合高校のグラウンドの東側から正門付近までの電線共同溝本体工事の施工を行いました。令和4年度につきましては、道路占用企業者である水道局の水道管布設工事が予定されています。続きまして、ケミコン跡地の南北方向を結ぶ根ヶ布、長淵線の整備事業です。令和3年度は青梅総合高校グラウンドの東側から東青梅センタービルまでの間について道路および交差点の詳細設計を実施しました。令和4年度は整備に必要な用地の不動産鑑定や物件補償の調査等を行います。続きまして、東青梅1丁目の新市民ホールと複合施設整備事業です。令和3年度には広く市民等の意見を聴取することとして市民ホールに関する懇談会を3回開催しました。当初年度内に5回開催して意見をまとめる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により予定通りの開催とはならなかったため、令和4年度も引き続き市民ホールに関する懇談会を開催し、市民利用者、有識者から意見聴取を伺う予定です。今年度のできるだけ早い時期に意見をまとめまして、その結果を得て基本計画の策定を予定しています。次に、釜の淵公園改修事業です。現在、青梅市役所庁内にて釜の淵エ</p>

	<p>リア活用検討委員会を設置し、釜の淵エリアの今後の活用方法につきまして検討を進めています。検討を進めるにあたって、現在閉鎖している旧釜の淵公園水泳場および旧釜の淵市民館ですが、その活用等について検討を行った中で令和4年度には両施設を解体することとなっています。まずは両施設を解体し、更地としたうえで民間事業者からの意見を聞くなどして釜の淵エリア一体の具体的な活用について検討を進めていきます。また、令和3年度の実績等につきましては、毎年の定期フォローアップとして5月に内閣府へご報告をします。定期フォローアップの内容につきましては、次回の本協議会で皆様にご報告をする予定です。青梅市の進捗状況としては以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に事業者の青梅市商店会連合会の久保会長、お願いします。</p>
委員	<p>事業につきましては、このコロナ禍で事業が実施できていない状況ですが、昨年度は無観客で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会フラッグ掲揚を行いました。他には青梅市様より委託された青梅市新型コロナウイルス感染症自宅療養者支援事業を行い、今年度も行っています。こちらは自宅待機者濃厚接触者の方々に食材配送の委託を受けて行っています。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に事業者の西分大通り振興会の沼田会長、お願いします。</p>
委員	<p>今年の2月から井上会長から変わりました、まだあまりよく分かっていないことが多くありますが、今後ともよろしくお願いします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に交通事業者の青梅駅長の飯島駅長、お願いします。</p>
委員	<p>JRの概況ですが、皆様に両面刷りの資料を配布させていただきました。ご紹介になりますが、青梅駅前のモスバーガーが撤退しまして、まちの駅青梅が29日にオープン予定です。まちなかにありましたまちの駅青梅様がこちらにテナントとして入る予定になりますので、皆様にご紹介をさせていただきます。また、御嶽駅公募型写真展もご紹介させていただきます。こちらは昨年から東京アドベンチャーラインが青梅から奥多摩間で無人駅総選挙という企画を SNS 等で発信させていただきました。総数1,000件程度の中で御嶽駅が1位に選ばれました。各駅で何をしてるかということ、無人駅ではありますが、社員が一人ずつ担当の駅を持ち、皆様にそれぞれの駅の魅力を発信したり、気が付いた点を発信することを行っています。社員自身がこの駅の担当になったらこのようなことを実施していきますということを発信しています。そして、御嶽駅の社員がここで写真展をやりたいということで開催いたします。写真展では、オープンの中の写真の管理が難しく、いたずらされたり持っていかれたりしないように制約をつけて行っている中で、青梅市観光協会の水村事務局長様にもご紹介やご尽力いただいて開催します。これからはいろいろと御岳駅周辺周辺の写真を集めた</p>

	<p>り、ある程度確保できたら良いと思っています。今後は皆様に昔の本や写真を見ていただいて、懐かしんでいただけたら良いと思っています。ゴールデンウィークから写真展を開催していきますので、ご来場いただいたお客様に喜んでいただき、また、ご来場いただくためのツールとして使ってきたいと思っています。今日から募集を行っていますので、皆様も何かありましたらご協力をいただきたいと思います。今後も御嶽駅に限らず、青梅線の各駅でこのような形のイベントを仕掛けていき、青梅、奥多摩に多くの観光客が来ていただけるような楽しいイベントを想像していきたいと思っています。最近のJRの動向としましては、収入も徐々に戻ってきていますが、近場の収入は4月は良い時の85%まで戻ってきました。新幹線はまだ戻らず、良い時の50%強となっています。東京から仙台間が当社にとってここはドル箱路線になりますが、地震の関係等もあり、戻っていないのが実情となります。ただゴールデンウィークについては良い予約状況となっていると思います。利益率は良くなっているように見えますが、良い時の67%程度まで戻ってきてるような状況です。ただ固定費が高い業種なのでトータルで80%から85%以上の利益率でないと利益が出ないような状態です。しかしながら、暗い顔をしてはいただけないと社員一丸となって、いろいろなものをかけながら私たちが元気に、また皆様にも元気を与えていけるようにと使命感持っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に交通事業者の東京都交通局の泉青梅支所長、お願いします。</p>
委員	<p>地元の皆様と観光客の皆様を安心、安全にお運び、お届けできるように対応していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。4月1日に就任したばかりですので、皆様と協力しながら対応させていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に市民団体の青梅駅前地区市街地再開発組合の澤渡理事長、お願いします。</p>
委員	<p>前回は出席できませんでしたが、昨年4月に東京都から組合設立の認可をいただき、5月に入ってすぐに再開発組合の設立総会を開催しました。そこで正式に再開発組合が立ち上がりました。その後、粛々と再開発の手続きを進めていまして、11月には建物の入札を行いました。5社から問合せをいただき、中には青梅の事業所様にも手を挙げていただきましたが、最終的には3社から入札をしていただきました。しかしながら組合の予定価格に届いていけませんので、再入札の手続きを取っています。ここで2回目の入札が行われるところですが、諸般の事情によりさまざまな物価が高騰しています。また、ロシアが戦争を始めたことで建設業者もなかなか厳しい見積りを出してくるのではないかと考えておりますが、組合としましてはなるべくスムーズに手続きが進められるようにこれからも対応していき、ぜひ、この再開発をなるべく早く進めていきたいと思っています。テナント出店者との話は順調に進んでいます。JRの飯島駅長様からもご紹介がありましたが、まちの駅青梅様は先行手続きという形で</p>

	<p>モスバーガーのところに移転して営業されます。その他のところも徐々に話をしながら再開を進めていきたいと思っています。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に、経済団体の青梅織物工業協同組合の太田事務局長、お願いします。</p>
委員	<p>シネマネコの滑り出しですが、昨年6月4日にオープンしまして、資料の中にもありますが、菊池氏の頑張りおよび地元の皆様のご協力と支援で1万人の来場を1年足らずで達成いたしました。当初から菊池氏と話をしながら月に1,000人くらいは入ってもらいたいと考えていて、自然とお客様が来るという理想的なスタイルがなかなか望めない感じがありました。菊池氏もいろいろとアイデアを出したり、自分のところを開拓して行っていたようですが、話が上手なこともあり、例えば火曜日を定休日にしてはいますが、火曜日でも地元の社会福祉法人の意向で団体を招いて、特定の映画を見ていただく等々も行っています。上映しているものを見てもらうだけでなく、招いた団体が選んだものを見ていただく、研修の教材に使っていただくということで利用されていました。また、佐藤財団様にもご協力をいただき、チケットを200枚から300枚程度配布して、やりたい教材を見つけて上映する等、徐々にシネマネコに協力いただけるという作戦を練ってやられていますので、組合としてはサポートする立場で協力をしています。最終的にはこれらが中心市街地活性化に繋がってくると思っています。それからもうひとつは、クラウドファンディングの2回目となります。こちらは目標を200万円から300万円程度のことで、シネマネコが昔の都立の試験場の跡の建物が使っていて、全然変わってない外側の外装と出入り口の階段のコンクリートが一番問題となっています。お年寄りに来ていただいて、用心しながら入館していただいています。早急に修繕しないといけないということで菊池氏とも話をしたなかで、クラウドファンディングで結構資金が集まるようでしたので、進めています。こちらの修繕はゴールデンウィーク明けに出来上がる予定ですが、昨今の資材の値上がりという、小さい工事でも倍くらいに跳ね上がってしまう状況もありますので、様子を見ながら進めているところです。世の中に物騒なことも多く、北海道でもなく観光船が沈没していて、こちらでも一人の方がひっくり返って怪我でもされたら大変なことになります。そのようなことがないようにしっかりと管理すること、また、それに伴い、非常に美しい外観がエントランスと溶け込んでいけば、いい雰囲気ある建物になるのではないかと期待しています。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に、経済団体の青梅信用金庫の平岡理事長、お願いします。</p>
委員	<p>前回もお話をしたかと思いますが、私どもが営業している多摩地域は、都心へ通われる方のベッドタウンということで、建設業および不動産業が現在では非常に多いと感じています。そのような中、コロナが始まった頃はウッドショックや半導体不足が起</p>

	<p>き、家を建てるのに良いものはあると、建設業者が値段に利益を少し削って販売しているということがあったと思います。しかしながら、ここに来てロシアのウクライナ侵攻による木材不足、半導体不足、その他諸々ありますが、建設業者だけでは対応しきれなくなっているとのことであり、エンドユーザーの買う値段が上がってきてることも感じています。この間のニュースも報道されていましたが、3,000万円で見積もりを取っていて、いざ建てようと思ったらそれが3,800万円だったというような話も聞こえてきます。実際的にいろいろな方からお話を伺いますと、やはり10%から20%程度でコストが上がっているという話を聞いています。そのような中、最近増えてきたと思うのが、不動産業者から家を買って、クラッシュアンドビルドで建て替えをしていたが、古い建物をリフォームしてその後で売るというケースも以前よりも多くなってきたと感じています。また、先程、澤渡理事長様からも話がありましたが、建設業者がこの物の値段が上がっている中でなかなか契約するにも非常に慎重になってることを感じます。それから地球温暖化対策で政府が2050年のカーボンニュートラルを目標に考えて各企業も対応しています。その件で話を聞いたのですが、大手の企業と取引をしているが、どれだけSDGsに対して取り組んでいるかを求められるようになったと聞きます。SDGsに取り組んでいかないと仕事がもらえなくなってしまうと心配をされている方もいました。最後に、私もこの地元に住んでいて、いろいろな方に青梅駅のところにマンションができるという話はよく聞きます。それらの情報は知っているので、そのようですとの回答はするのですが、マンションだけでお店はできないという話も聞きます。そのような情報が独り歩きしているような感じもあります。この地域に住む人の住みやすさと発展を考えると、この場で日用品が購入できたり、食料品が購入できる施設があったらいいなと思っている人が多いと感じています。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次に、経済団体の青梅青年会議所の多田理事長、お願いします。</p>
委員	<p>私も初めての出席ですので、慣れておりませんが、まず少し私どもの紹介を交えながら活動のご報告をさせていただければと思います。私どもは青梅市、奥多摩町を中心として、主に経済振興および青少年育成、社会人としての人財育成、市民交流に繋げていくということを目的として活動しています。その中で2022年度におきましては、これまで社会人、経済人としての自主性と主体性の向上に繋がるような講演会をさせていただきました。また4月には青少年育成に関する講演をさせていただきました。ここまでは中心市街地活性化とは少し違う活動だと思いますが、今後、8月、9月に向けて市民の観光に対する意識を高める事業を行っていきたいと考えております。こちらは青梅市の観光というものに対して焦点を当てている中で、市民の観光に対する意識というものは知識が結構あり、観光というものが青梅市の魅力の一つになってます。こちらを進めていくためにはどうしたらいいのかというところを考えて、現在は計画の段階ではございますが、例えば何か大きな看板を作って市民が一つの意識を持って、観光客が宿泊で来られるようなものを作れないかと計画を立てていま</p>

	<p>す。まだ計画段階なので明確になっていないこともありますが、そういった形で中心市街地活性化にご協力させていただきたいというふうに思っております。引き続きよろしくお願ひいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございます。次に、観光関係の青梅市観光協会の水村事務局長、お願ひします。</p>
委員	<p>まずは1月12日に行いましただるま市です。昨年は5,500人の来場がありましたが、今年度は23,000人でした。あくまでも主催者発表となりますが、潜在力、観光の潜在力はまだまだあるということを感じました。続きまして、3月25日から4月3日まで10日間でしたが、釜の淵の桜のライトアップを実施しました。天気がちょっと悪かったということと桜の開花が遅れていましたが、10日間で3,689人の来場がありました。なお、1日での最高は4月2日の土曜日、1,301人でした。天気と開花が揃えば1日1,000人以上の方が来場されることには自信がつけました。それから、現在、青梅市観光協会では滞在型の観光の魅力づくりを進めています。アドベンチャーライン沿線の食の文化で進行を考えています。ガストロノミーということではございますが、観光財団から990万円の予算を申請して、青梅市観光協会、奥多摩観光協会、西東京農業協同組合、それから商工会議所、青梅市に協力も頂きまして進めているところです。こちらにつきましては今年度中に事業を完結させていきたいと考えています。以上です。</p>
委員	<p>ありがとうございます。次に、医療福祉関係の青梅市社会福祉協議会の池田常務理事、お願ひします。</p>
委員	<p>社会福祉協議会の事業ですが、コロナの関係では東京都社会福祉協議会が行っていますコロナの特例貸付、こちらが3月いっぱいの子定でしたが、期間を延長して現在も特例貸付を行っています。コロナによって収入が減った方、仕事がなくなってしまった方、そういう方々を対象に行なっています。毎日2、3件の問い合わせは来ていて、面談をして申請を行っている状況です。それでもコロナの影響まだまだ大きいと感じています。それから、おーちゃんフェスタというボランティア団体等が市役所の駐車場にコーナーを設けていろいろな物の販売したり、いろいろな催しを実施したりと、こちらは2年続けてコロナの関係で休んでいましたが、今年度につきましては現在実施の方向で検討しているところです。以上です。</p>
委員	<p>ありがとうございます。次に、医療福祉関係の青梅市医師会の土田会長、お願ひします。</p>
委員	<p>私も今回が初めての参加となります。よろしくお願ひします。青梅市医師会ですが、青梅市休日夜間診療所の現場になりますが、今は主に新型コロナウイルス感染症の診療が中心となっています。そのことで少しでも地域活性化にお役に立てればと思っています。今後ともよろしくお願ひします。以上です。</p>

議長	ただいま皆様からの状況の説明がありましたが、その他に何かありますか。無いよう でございますので、タウンマネージャー報告を國廣さん、よろしく願いいたします。
TM	<p>皆様、こんにちは。今年の春で着任してから10年目に突入することになりました。皆様のお力添えがなければこの仕事は続けてこれなかったと思います。大変感謝申し上げます。ありがとうございます。今日は新任の方もいますので、中心市街地の最新状況を過去も振り返りながら、この数年間でどのような成果が残せたのかということをお伝えさせていただければと思います。現在でも日本全体では人口減少が進んでいます。青梅駅前再開発の計画ではマンションの建設が予定されています。それによる人口増加は若干見込める予定ですが、全国的に人口が減っていますので、マンション用地がたくさん用意できるわけではない青梅市において、いきなり空き家にたくさん人を呼び込んで人口増加が狙えるわけではありません。それを前提として、都市戦略の究極の目的は一つであり、未来世代に一定数、この街に住んでもらえるという仕組み、サイクルを作り続ける、これだけが目標になります。もちろん高齢者をないがしろにすればいいという話ではなく、若い人たちにチャンスがあつて、その人たちがこの街が好きだと思い、魅力的だと思って移住してくれる、そのようなところにしっかりと光を当てていかなければ街の未来はないと思っております。中心市街地再生を成功させるために我々が皆様と協力しながら進めてきた三つの重要な組み立てというのが、仕組みを作ること、本協議会の運営やまちづくり会社を作ること、さらにはここで情報共有をしたり、皆様で協力し合うこと、そのような仕組みづくりです。また、イメージづくりがすごく重要となります。これはイメージプロモーションビデオをたくさん作って流していけばいいというものではありません。おうめマルシェのような、誰がどのような事業をやっているのか、という生のアクティブな情報が外に伝わる、シネマネコもそうですが、あのアイデアとか企画だけじゃ駄目であり、それをしっかりとSNS等でいろいろな方に発信していく、届けていく、取材を受けたりプレスリリースをしたりしていくことがイメージづくりに繋がると思っています。最後はエリアマネジメントですが、私が着任した頃の青梅は新しい人が何か始めると何かをやってもその程度だろうと空気がありました。しかし、10年経ってそのような空気をひっくり返すところまでできたのかなと思います。今では、まちの人たちも競争心が激しいと思っております。1円でもまちの人たちがこの街で開業した人達にお金を落としていただいて、それを支えるという意識は常に持っていたきたいと思っております。その上で、都市計画的な構造課題をどういう風に整備、解決しようということを青梅駅前の再開発であるとか、新しいプロジェクトとかがようやく進められると思っております。まちづくり青梅の田中様からも報告がありましたが、アキテンポ不動産は毎年毎年見学会を行っています。これまでで43件の賃貸してない物件を掘り起こし、27件の開業に繋げています。こちらはおうめマルシェも開催していますので、おうめマルシェの参加事業者が開業してくれたり、まちなかの火付け役を担ってくれています。昨年の協議会でも報告させていただきましたが、昨年度は非常にアキテンポ不動産の問い合わせが激増しました。通常は見学会の時以外は問い合わせがほとんどない</p>

状況でしたが、現在では常に30件から40件程度で内覧希望の方の対応をしなければいけないという状況になっています。現在も新規の問い合わせが増えている状況です。中心市街地を少し広めにしていますが、新規開業数が125件、累積で開業しています。街を見渡すとどこに店舗があるのかと未だに言われることもあります。たくさん開業者がまちなかでチャレンジしていただいています。その中で既存の店舗含む廃業は80件となっています。この中には長崎屋跡地の買い占めなどに端を発するサイクルハーバーもカウントはされていますが、まちづくり青梅ができたおかげで新規開業数を順調に伸ばすことができます。開業する店舗の業態はさまざまとなっています。コロナ前までは飲食店で開業したい方の物件の問い合わせが非常に多かったのですが、飲食店では賃貸したくない物件も多くありました。最終的には飲食店で開業した方は全体で25%になりました。コロナになってからは飲食店で開業したい方は若干減少している感じがしますが、サービス業や製造販売業等の利益率の高い商売に結構分散しています。今では圧倒的に年々物販店の廃業が多くなっています。中心市街地活性化協議会でお世話をした、アキテンポ不動産で開業した店舗だけでなく、我々が知らぬところで波及効果として開業した店舗が現在、125件となっています。こちらは自然発生的に増えただけでなく、まちづくり青梅のスタッフも含めて、皆様が頑張ったからとも言えます。2015年には空き店舗の立地分析をしています。そちらによると、中心市街地から少し離れたエリア以外はあまりその立地に差がないことが分かっていました。おうめマルシェも開催する前にどこの場所で開催すればまちなかの開業に繋がるかということは事前に分析していました。その中でいろいろな候補地がありましたが、まちなかの店舗との連結等、非常に高く効果が出るということで現在の住江町駐車場に立地をさせて、開業を促進しているということではほぼ分析通りとなっています。おうめマルシェですが、現在は毎月参加店がSNSを通じて50事業者程度が常に登録しています。出店する15店舗程度がFacebookとInstagramを同時に更新していて、今までは紙のマップで商店街に誘導していましたが、現在はアプリでまちなかに誘導しています。コロナ禍になり、マルシェ会場だけに人を集めるのも来場者でネガティブな方もいますので、今年の3月から投稿広告での周知をまちづくり青梅から始めています。趣旨としては、マルシェで買ったものをテイクアウトして青梅のいろいろなロケーションの良い所に買い物に行ってくださいということで、だいたい1週間から10日、5,000円程度をかけて都心の方や若い方にその都度、広告を設定して配信をしています。その結果、割と常連客以外で見ない方も結構、足を運んでくれていると報告を受けています。しかし、そういった方々がリピートいただけるかどうかはこれからであり、今まではその青梅のまちの方に支えていただいた場所でしたが、外の人にもリピートしていただけるかについて、今後もおうめマルシェ実行委員会の中でも切磋琢磨していただき、街の中に1円でも多く落とさせていただけるようなサービスを提供できるようにみんなで頑張っていきたいと思っています。マルシェをやりまして、以前もご説明していますが、マルシェ以前は結構マーケットイベントがたくさんありました。しかし、単発で終わっていました。マルシェをスタートして以後、安定したマーケットイベントが増加していきま

つの要因としてはおうめマルシェが **Facebook** で、すべてのイベントの開催情報を公開するとともに、マルシェに参加した店舗も自分達の各エリアに戻っていろいろなイベントを同じように展開することができる効果を守っています。従いまして、中心市街地ばかり投資をしているという議論は今後も出てくるかと思いますが、やはり知恵やノウハウが非常に重要になりますので、街中で得られた知恵、ノウハウを得て周辺に持ち帰ることができるというパターンを確立してきてると思います。2021年8月にリニューアルオープンしたおうめ時間の宿ですが、地元の偕楽のお嬢様の本橋さんが経営しています。外国人の方に訴求できるようにインテリアにかなり凝っていただくとともに、地元の写真家に撮影していただいたりと非常に努力をされています。現在では月の半分程度は稼働しています。利用者の中には家族連れで1週間程度滞在する方やテレワークで1人で何日も利用される方もいます。また、本橋さんにはアキテンポ不動産の開業者のその人となりによりフィーチャーした情報発信ができるようにしようということで、noteというブログサービスで記事の更新を始めています。このnoteというブログは23フォロワーであんまり読まれていないと思われるかもしれませんが、こちらは検索エンジンに特に強いブログサービスとなっています。アキテンポ不動産で検索すると3番目程度までの間にnoteの記事が上がってくる状況で、青梅が開業のメッカであるという印象づけにはかなりなっていると思います。元々、おうめ時間はまちづくり青梅でサブリースで投資していますが、そこで民泊をしてどのぐらいの観光客が来てくれるかということと、コロナになる前は小さなまちの発信のツアーなどを企画をして、青梅泊で青梅発着で青梅のいろいろな所に遊びに行ってもらおうことの情報発信することで、民間から似たような投資を呼び込むその当時誘発の受け皿としてアキテンポ不動産がもう既にあるというサイクルを描いていました。現在のところ、その代わりに観光だけではなく、移住したい方や購入したい方にフィーチャーした情報発信をしていることでアキテンポ不動産も相当の問い合わせがくる状況になっていると思います。このようなことも仕込まないと、ただ何か良いことをやれば誰かが注目してくれる甘い世の中ではなくなっています。2021年10月の協議会後に開業した店舗としては、今年2月にナミオ珈琲が昭和レトロ商品博物館の所で開業しました。また、先程、ご紹介いただきましたが、1万人を突破しましたシネマネコにおきまして、菊池様からお話を伺いました。飲食店の営業が非常に厳しいということで、逆にこのリスクの高い投資に取り組んだシネマネコが高く評価していただき、本当に私は心の底から安堵しています。また、釜の淵公園エリアの改修計画になります。こちらは中活計画に載っていますが、我々は施設活用の検討などは進めてきて報告書なども挙げている現状です。こちらの案件につきましては青梅市でもっていただいています。夏場のゴミ問題があります。夏場に無料でバーベキューをするお客様のゴミが散乱している状況になつてということで、まちづくり青梅のスタッフにリバークリーン活動をしている移住者の皆様などから相談がありました。現在、決定はしていませんが、おうめマルシェのイベントなどを実施しながらゴミ袋の有料販売をしたり、おうめマルシェが終わった後に河川をリバークリーンして帰るようなことを青梅市に相談させていただいているところ

です。

ここで9年振り返ろうと思い、まちづくりが本格するまでの間、いろいろな事やってきたと思います。東栄会とイルミネーションを行ったり、映画上映を行ったり、プロジェクトマッピングもやりました。若者カフェという団体がものすごく活動してくれてた時期もありましたが、この中の中角の人物がみんなのステップアップで都心に転職してたり、奥様になられたり、お子様ができたりとのこともあり、今までのようにとはいかない部分もありますが、ババコンも楽しかったというこのような時代もありました。シネマネコができるまでには、ちゃんちき堂とクラウドファンディングを立ち上げて青梅の若者たちに映画配給会社と交渉ができることを教えまして、シネマクラブが立ち上がりました。小澤会長にも大変お世話になりまして、チーム澤乃井というお酒を飲む集団がまちなかでいろいろな日本酒イベントを展開させていただき、蔵開きの時もイベントを展開させていただきました。青梅織物工業協同組合に関しましては、太田事務局長には非常に支えていただきまして、クラフトをやられる方やアーティストの方が非常に多く集まってきている流れを止めたくないということで、文化財に登録するってことができ、そのエリアで活動している皆様にORIC123というまちづくりグループを組んでいただき、今もクラフトマーケットを自主的に開催していただいています。今年もコロナ禍ではありますが、久しぶりでやろうという話を聞いています。おうめマルシェの前身になった青梅まちなかビアガーデンも、これをやったことをきっかけにまちなかでも多くの皆様が集まって、地元の人たちが気軽に来られる場所を作るだけでお金がかかり動くこともわかりました。青梅の仕事以外では、五日市の仕事も5年目になりますが、違ったことをやっています。そこでは青梅で学んだことをご報告させていただきたいと思います。五日市は青梅以上に閉鎖的な所で不動産が全然機能していない状況であり、誰にも貸していただけないという状況が結構序盤から続いていました。そこで、手作り新聞を作って地元のボランティアの記者の方を募って自治会の回覧でも毎月毎月ニュースを盛り込んでいます。また、空き店舗見学会も行っておりまして、青梅のノウハウを活用しています。しかしながら、建築基準法や保健所の届け等、法律関係のことがわからない方が多くて、空き店舗や空き家の活用講座をやったりする中で今まで3回の空き店舗見学会をやっています。その中から開業に繋がったのは1件のみとなっています。申し込みはあるのですが、途中で辞めてしまう方がすごく多くて、青梅との差を非常に痛感しています。開業したのは元釣具店で、1階は福生から移転してきた20代の方がカフェを経営し、2階は20代の男性カメラマンの方がコワーキングオフィスをオープンさせました。まちなかの広場では野外上映を行ったところ、400人以上の集客があり、商店街の方にはSNSで集客するだけだと大失敗すると言われて、仕入れを少なくして出店していたようですが、結果、ビールは50分待ちの長蛇の列になっていました。このような体験をしてもらうことでSNSでの発信もしないという状況になりました。この時もお金を落として集客できた方々は7割以上が五日市の方だったという状況です。まちづくり新聞は移住してきたデザイナーにリニューアルしていただくようにあきる野市に予算を工面していただいて、素敵なお新聞となってリニューアルしま

した。それにより五日市の12自治会で回覧配布をしていましたが、旧五日市エリア40自治会に自分たちで配達するから配りたいとなりました。今ではあきる野市や支会の方々にも協力いただいて、毎月40自治会に自主的に配達しています。また、のらぼう菜のPRをするフリーペーパーを地元のクリエイターたちと作ったりしているうちにオーガニックマーケットが立ち上がったなどしました。五日市でもコロナの影響を受けていると思いますが、旧五日市エリア全体で伸びていますが、空き店舗で市街地でも活用していただける率が非常に低いです。その理由が駐車場のカバー率になります。市街地に立地している空き店舗から徒歩1分でカバーできてる駐車場がほとんどありません。徒歩2分、3分、4分、5分まで伸ばしてようやく少し出てくる程度となります。青梅は駐車場がまちづくり青梅が預からせていただくことになり、最初の頃は駐車場は難しいと言われていましたが、125件も開業が伸びてきたのは駐車場がしっかり整っていたからであるということに気づかされています。駐車場に関しましてはいろいろなイベントがある時には各団体に車を置いていただいています。日々の駐車場の台数とか売上をチェックすることで街の状況がわかりますし、そういう意味でもまちづくり会社が駐車場経営している意義はすごいあるなと思っています。五日市では青梅市のように中活協議会があるわけではないので、駅前の整備や広場の整備、まちなかの駐車場が課題になっていて、なかなか対応できないということで今年度限定でまちづくり協議会を大きいピッチで立ち上げるということを支援しています。このようなことで青梅では当たり前だった環境が力強いバックグラウンドとして思い切り開業を伸ばすことができたり、まちなかに人を集めたりできたと感じています。補足になりますが、青梅市の事例を講演をしてほしいと講演会が大人気であり、日経新聞のセミナーを昨年2月に登壇させていただき、その時はオンラインで1,000人の方にご視聴いただきました。中小企業庁のセミナーは今年3月に連続講演会で10回程度ありました。こちらは280人の方がオンラインでご視聴いただきました。当日、会場に直接来られた方を含めると300人になったと聞いています。また、先日、木造施設協議会が青梅で公民連携セミナーを開催していただき、こちらもオンラインとリアルを合わせると100人の方にご視聴いただきました。他にも柏市のアーバンデザインセンターの方で青梅のアキテンポ不動産の建築アドバイザーをしていた梅岡氏が転職してしまっていて、まちなかを発着するツーリズムということで講演会をさせてもらい、70人程度の方に来ていただきました。私自身は外でも青梅で苦労をして開業を増やしてきたことは積極的にPRしていますので、ここで歩みを止めるのではなく皆様のご協力を引き続きいただきたいと思っています。

これから目指すべきところ、何をしていけば良いのかということで、まちづくり青梅のスタッフを連れていろいろな所に視察見学も行っていきます。ひとつは、柏市のアーバンデザインセンターになります。路上活用が非常に上手く、子供が遊べる場所をプロデュースする点について非常に重視しています。路上を人工芝で遊べるようにするだけではなく、こたつを置いたりして、大人も子供も楽しめる場所を作っています。中心市街地にこんな場所があったことを思い出したりしました。もうひとつは、多治見市のまちづくり会社になります。私自身がタウンマネージャー協会の理事も仰せつ

	<p>かっていることもあり、タウンマネジャー協会の副理事長様がこの多治見まちづくり会社の社長で43歳と非常に若い社長です。こちらの会社が地域で非常に若者たちに注目されて、入社したい会社ナンバーワンと言われていて、この社長様の人柄も非常に良いのですが、多治見市がバックアップして、資本金は1,500万円で多治見市は750万円ということですが、副市長様と社長様が二人三脚で事業を実施しています。ここで組織改編があり、別組織に転換されるそうですが、スタッフは総勢30名になるとのことでした。まちの若者が30人もまちづくりに参加してる状況にできるなんてとても羨ましいです。今度は多治見市にも視察で伺ってみたいと思っています。多治見市でのもう一つ良いことは、中心市街地活性化協議会がありますが、なかなかハードの整備がなく、内閣府の認定のもらえる基本計画が作れなかったそうですが、今は2期目に入って実施計画で地元の若い人たちを集めて、若い人たちの発案で作った計画を多治見市でシェアしていこうという形で進んでいるようです。これからも行けるところに視察に行くことも日常的にやっていきたいのですが、こういう立場でタウンマネジャー協会の理事も仰せつかっているところまで来ましたので、最もノウハウのあるところにしっかりと学びに行くということを外さないでやっていきたいと思います。</p> <p>長くなりましたが、未来世代に選ばれる街を目指していることは変わらないと思います。本協議会の場で若者だけが集まれば何か良いことが起こるというわけではありません。ご協力いただいている皆様には本当に感謝しています。ありがとうございます。まちづくり青梅のスタッフも頑張っていて、昨年から社員が一人増えました。そういう状況を作ったのも皆様のおかげだと思います。再開発も控えておりますので、引き続き皆様、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。大変分かりやすく前に進んでいるということがよくわかる説明をいただきました。皆様にいろいろな状況の説明をしていただき、最後に國廣タウンマネジャーがそれを集約して、全体の流れをご説明いただきました。報告事項はこちらで終了させていただきます。これですべての議事が終了しましたので、議長の席はおろさせていただきます。ご協力大変ありがとうございました。</p>
司会	<p>小澤会長、議事進行、ありがとうございました。それでは次回の青梅市中心市街地活性化協議会についてです。次回は10月を予定させていただき、詳細な日程が決まりましたら皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。では、最後に閉会のご挨拶を副会長の小山副市長様、お願いします。</p>
副会長	<p>本日は第22回青梅市中心市街地活性化協議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。会議の中でも触れましたように平成28年度に認定を受けた基本計画の期間が1年間の延長が認められました。この計画については本年度末ということになっています。これを踏まえて、今後の中心市街地活性化の方向性や本協議会のあり方につきまして、引き続き皆様と検討をさせていただければと考えています。会議の冒頭に小澤会長からも関係する方々が一同に介して協議をすることに意義が</p>

あるというお話がございました。私もそのように思っています。この基本計画を策定した当時、想定しなかったコロナ禍という時代の中で、例えばテレワークが広がる中では都心に比較的近く、緑、自然が多い青梅市に新規出店や移住についての問い合わせが多くあると伺っています。こういう厳しい状況の中ではありますが、前向きな要素があると捉えています。新しい生活様式を十分に踏まえた中心市街地活性化の検討は大変重要だと考えています。基本計画に盛り込まれた事業の推進に向けて、これからも関係する方々と力を合わせて事業の達成に向けて努力をして参りたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。以上、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。